

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XI

平成9年3月

熊取町教育委員会

は し が き

熊取町では現在38ヶ所の遺跡が周知されていますが、近年の急速な土地開発などにより、埋蔵文化財の破壊と消滅の危機に瀕しています。そこで昭和60年度から国庫補助を受け、町主体の発掘調査を実施し、これまで貴重な文化財の記録保存に努めてまいりました。12年間にわたり蓄積してきた記録は、先人達がこの地で営々と築き上げてきた文化そのものであり、そこから先人達の知恵を学び取り、さらに未来の私達の生活へ活かし、より良い社会を築いていくのに役立つものといえるでしょう。

本書は平成8年度中に国庫補助事業として実施した調査成果を概要報告書としてまとめたものです。いずれも小規模な調査で十分な成果を挙げ得たとはいえませんが、地域史解明のための一助として広く活用していただければ幸いです。

最後に、現地での発掘調査にあたってご理解とご協力をいただきました関係者各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

熊取町教育委員会

教育長 甲田 太三郎

例 言

1. 本書は、熊取町教育委員会が平成8年度国庫補助事業として計画し、文化課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会社会教育部文化課文化財係職員前川 淳、永井 仁を担当者として、平成8年4月1日に着手し、平成9年3月31日をもって終了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上平成8年4月1日から同年12月27日までの発掘調査成果及び平成7年度事業で昨年度報告できなかった平成8年1月5日から3月31日までの調査成果を掲載することとした。
4. 本書における図面の標高はT.P.（東京湾平均潮位）を用い、また方位は地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員の参加を得た。
尾上賢一郎、貝戸雄幸、川東士朗、桑原良治、阪口雅美、関井澄子、山本恵子、横山隆寛
7. 本書の執筆は各担当者が行い、文末に文責を示した。また編集は永井が行った。

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	1
第1節 地理的環境	1
第2節 周知の遺跡	2
第3章 調査成果の概要	4
第1節 久保B遺跡の調査	4
第2節 東円寺跡の調査	5
1. 96-4区の調査	5
2. 96-5区の調査	6
3. 96-7区の調査	7
第3節 久保城跡の調査	8
1. 96-1区の調査	8
2. 96-2区の調査	9
第4節 大谷池遺跡の調査	10
1. 95-1区の調査	10
2. 96-1区の調査	11
第5節 池ノ谷遺跡の調査	12
第4章 おわりに	13

挿 図 目 次

第1図	熊取町の位置	1
第2図	熊取町遺跡分布図	3
第3図	久保B96-1調査地点位置図	4
第4図	久保B96-1調査区位置図	4
第5図	久保B96-1土層断面図	4
第6図	東円寺跡96-4調査地点位置図	5
第7図	東円寺跡96-4調査区位置図	5
第8図	東円寺跡96-4土層断面図	5
第9図	東円寺跡96-5調査地点位置図	6
第10図	東円寺跡96-5調査区位置図	6
第11図	東円寺跡96-5土層断面図	6
第12図	東円寺跡96-7調査地点位置図	7
第13図	東円寺跡96-7調査区位置図	7
第14図	東円寺跡96-7土層断面図	7
第15図	久保城跡96-1調査地点位置図	8
第16図	久保城跡96-1調査区位置図	8
第17図	久保城跡96-1土層断面図	8
第18図	久保城跡96-2調査地点位置図	9
第19図	久保城跡96-2調査区位置図	9
第20図	久保城跡96-2土層断面図	9
第21図	大谷池95-1調査地点位置図	10
第22図	大谷池95-1調査区位置図	10
第23図	大谷池95-1土層断面図	10
第24図	大谷池96-1調査地点位置図	11
第25図	大谷池96-1調査区位置図	11
第26図	大谷池96-1土層断面図	11
第27図	池ノ谷96-1調査地点位置図	12
第28図	池ノ谷96-1調査区位置図	12
第29図	池ノ谷96-1土層断面図	12

図 版 目 次

図版第1	久保B遺跡96-1区	図版第4	東円寺跡96-7区	図版第7	大谷池遺跡95-1区
図版第2	東円寺跡96-4区	図版第5	久保城跡96-1区	図版第8	大谷池遺跡96-1区
図版第3	東円寺跡96-5区	図版第6	久保城跡96-2区	図版第9	池ノ谷遺跡96-1区

第1章 はじめに

平成8年度における文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数(平成8年12月27日現在)は、37件であり、昨年の同時期は29件であったことから増加を示している。

本書では、平成8年度国庫補助事業として実施した久保B遺跡1件、東円寺跡3件、久保城跡2件、大谷池遺跡1件、池ノ谷遺跡1件、平成7年度事業で実施した大谷池遺跡1件の以上9件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成8年度国庫補助事業一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日	担当者
久保B遺跡96-1	久保1121-3	田畑雅康	444.32㎡	19960430	前川
東円寺跡96-4	野田2397-1	藤原浩	369.46㎡	19960924～0927	前川
東円寺跡96-5	紺屋286-13	前田年数	50.50㎡	19961007～1009	永井
東円寺跡96-7	紺屋286-12	堀良雄	120.40㎡	19961015	永井
久保城跡96-1	久保1582-1	道端信行	421.47㎡	19961002	永井
久保城跡96-2	久保34-1	上野トミエ	196㎡	19961227	永井
大谷池遺跡95-1	大久保北2-1-2	赤池かおり	271.04㎡	19960229	前川
大谷池遺跡96-1	大久保北2-238-3	五十嵐次男	130.08㎡	19961111	前川
池ノ谷遺跡96-1	野田486-1	根来美好	637㎡	19961113～1121	永井

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



第1図 熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉形を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する(第1図)。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。

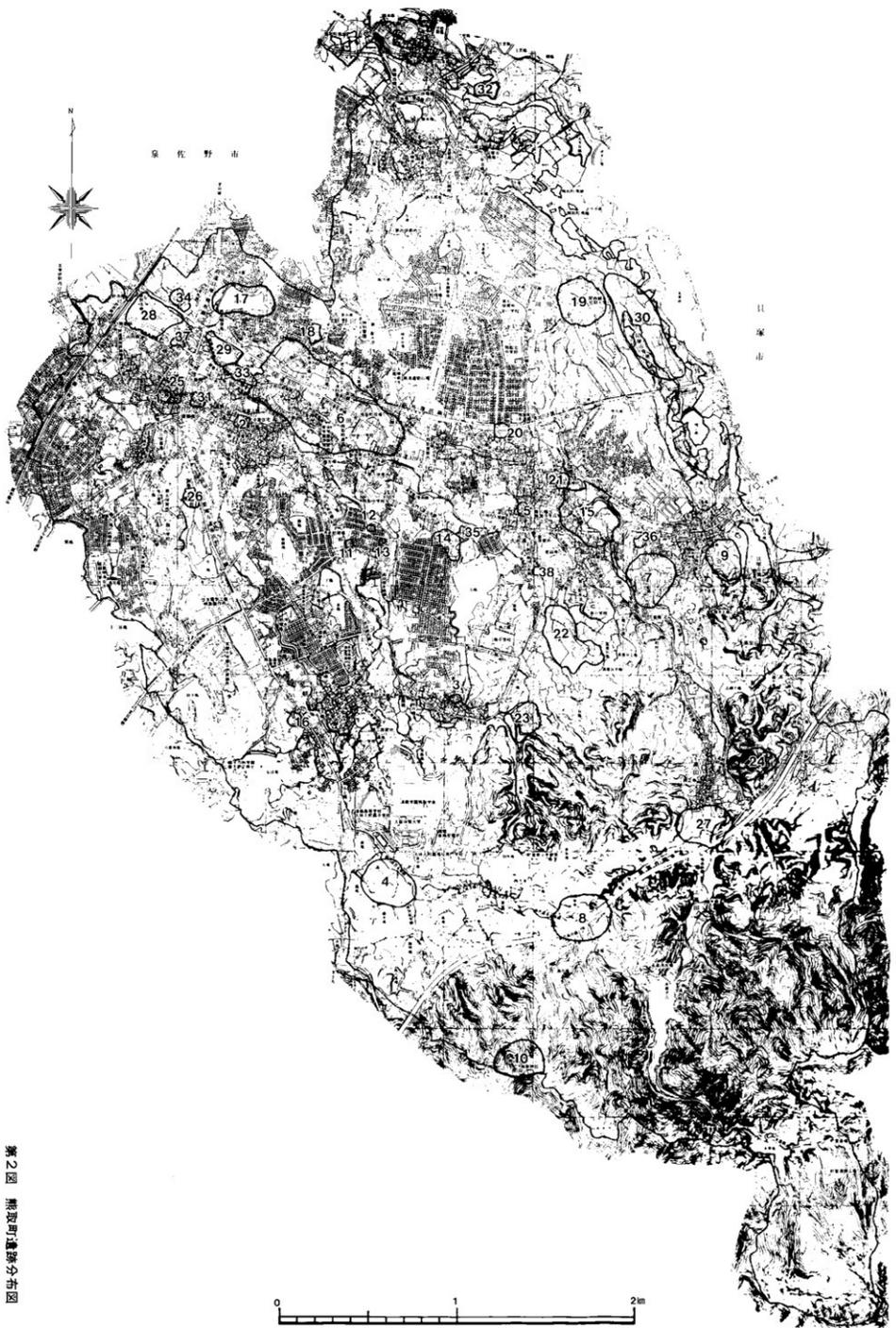
地域別に見ると、町南部においては泉南地域の基本山地となる和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている(第2図)。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。

町域に水源を持つ河川は見出川・雨山川・住吉川の3水系が存在している。3河川とも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。いずれの河川も下流部が他市域を流れることに加えて、本町が瀬戸内気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め地を目にすることが出来る。

第2節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

	周知の遺跡名	種類	時代	地目	立地	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	江戸初期から明治期までの陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の陶磁器や畑作遺構を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	
6	東田寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平地	縄文・奈良・鎌倉～室町・江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	畑地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壇墓群等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	土塁・掘切等の構築物が確認されている
10	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	月見ノ亭・馬場・千疊敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	享徳4年(1445)銘の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	的場・矢の倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	
18	祭祀御旅所跡	祭祀跡	室町	山林	丘陵	
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	毘沙門堂跡
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	屋敷地の区画溝や江戸初期の陶磁器等検出
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初中心の遺物多数出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	天正年間(1573～92)の雑賀衆徒の城
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保B遺跡	集落跡		宅地	平地	



第2図 熊野町道路分布図

第3章 調査成果の概要

第1節 久保B遺跡の調査

本遺跡は久保城跡、鳥羽殿城跡といった中世以降の遺跡に囲まれる状況下であり、鎌倉から室町期の瓦器を中心とする土器を包含する。しかし目下のところ柱穴などの明確な遺構は検出していない。

96-1区の調査

今回の調査地点は久保B遺跡の南端に位置する。調査は個人専用住宅の増築工事に先だって平成8年4月30日に発掘調査を実施した。

第4図のように調査対象地の中央部と南東端に調査区を2カ所設定して、機械と人力掘削を行って第5図のような調査区の地層を観察することができた。

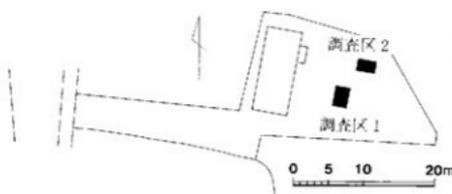
土層は両調査区とも同様に呈しており、上から個人住宅の造成時の整地土①、江戸時代の耕作土②・③があり、現地表下35cm以下に中世の包含層⑤・⑥・⑦が存在している。この包含層は耕作土の可能性が高く、地山と考えられる層⑧の面を突に平滑に削平した上で累重している。

遺物は瓦器を中心とするが、いずれも1cm程度の細片で実測にはおよばなかった。

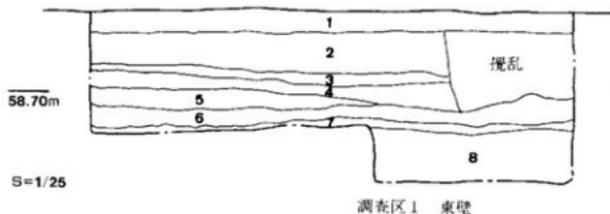
今回の開発が包含層の深度に及ばないことを確認したうえで、写真撮影と実測図を作成し埋め戻しを行って調査を終了した。(前川)



第3図 久保B96-1調査地点位置図



第4図 久保B96-1調査区位置図

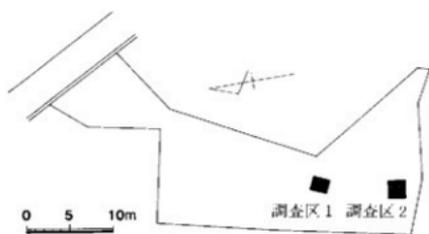


第5図 久保B96-1土層断面図

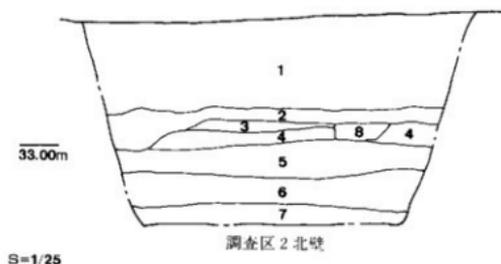
- | | | | |
|---|--------|-----|----------|
| 1 | 10 Y R | 7/0 | 客土 |
| 2 | 10 Y R | 7/1 | 砂質土(耕作土) |
| 3 | 10 Y R | 6/3 | 砂質土(耕作土) |
| 4 | 10 Y R | 6/2 | 砂質土(耕作土) |
| 5 | 10 Y R | 5/2 | 砂質土(耕作土) |
| 6 | 10 Y R | 5/1 | 砂質土(耕作土) |
| 7 | 10 Y R | 6/6 | 砂質土(耕作土) |
| 8 | 2.5 Y | 6/3 | 砂(地山) |



第6図 東円寺跡96-4調査地点位置図



第7図 東円寺跡96-4調査区位置図



調査区2北壁

- | | | | |
|---|--------|-----|------------|
| 1 | 盛土(現代) | | |
| 2 | N/3 | 灰色 | 砂質土(近代耕作土) |
| 3 | 7.5Y | 6/1 | 灰色 |
| 4 | 10Y R | 7/6 | 明黄褐色 |
| 5 | 2.5Y | 7/6 | 明黄褐色 |
| 6 | 2.5Y | 6/1 | 黄灰色 |
| 7 | 10Y R | 6/1 | 黄褐色 |
| 8 | 10Y R | 5/2 | 灰黄褐色 |
- 砂質土(新移民代耕作土)
粘質土(床土)
粘質土混じり砂質土
砂質土(マンガン塊混)
砂質土(マンガン塊混)
砂質土(マンガン塊多混)

第8図 東円寺跡96-4土層断面図

第2節 東円寺跡の調査

遺跡名となっている東円寺は調査により出土した瓦や文献・小字名より平安末期の建立と考えられているが、その実態は不明確なままである。しかし平成6年に実施した調査では、800㎡で150基もの柱穴を検出し、東円寺との関連が考えられる成果を挙げている。

1. 96-4区の調査

本調査地点は東円寺跡の範囲の中央部やや西よりに位置する。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成8年9月24日から27日に調査を実施した。

第7図のように調査区を2ヶ所設定し、現地表下1mまで人力掘削を行ったところ第8図のような調査区の地層を観察することができた。

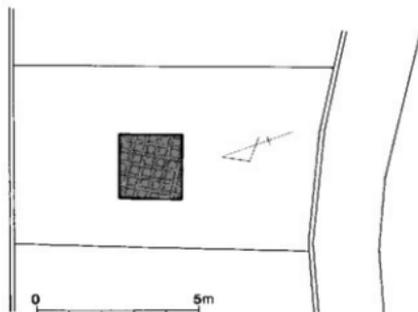
両調査区とも地層に相違はなく、上から近現代の造成の際の盛土①、近現代の耕作土が3層②・③・④とさらに江戸時代のものと考えられる耕作土⑤があり、遺物包含層が2層⑥・⑦存在している。さらに遺物を含まない灰黄褐色の砂質土が続くが、地山と考えられる地層を検出するにはいたらなかった。遺構はなく、また包含層に含まれる遺物も粉砕と摩耗の度合が大きく実測に耐えるものではなかった。

今回の開発が包含層に達する懸念はないことから写真撮影と実測図を作成を行って調査を終了した。

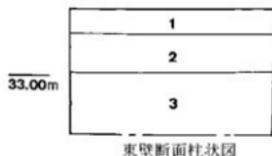
(前川)



第9図 東円寺跡96-5調査地点位置図



第10図 東円寺跡96-5調査区位置図



1	2.5Y	3/1	黒褐色	粘質土(現代盛土)
2	2.5Y	6/3	にじみ黄色	粗砂(※)
3	10B G	6/1	青灰色	粘質土(※)

東壁断面柱状図

2. 96-5区の調査

本調査地は東円寺跡の南端に位置し、熊取町役場から南西に260mの位置に所在する。現状は更地である。

調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成8年10月7日から9日の2日間で調査を実施した。

第10図のように調査対象地の中央部に調査区を1ヶ所設定して、人力掘削を行って第11図のような調査区の地層を観察することができた。

土層は当該土木工事により破壊される現地表面下60cmまで掘り下げたが、全て近代の盛土であった。

近年まで建物が建っていたが、その建設当時による盛土であると思われる。遺物も一切出土しなかった。

周辺の調査により当地周辺は湿地帯であったことが判明しており、近年の宅地化の際に大幅な盛土を行ったことが推測できる。今回の開発による文化財への影響は全くないとして調査を終了した。

(永井)

第11図 東円寺跡96-5土層断面図



第12図 東円寺跡96-7調査地点位置図

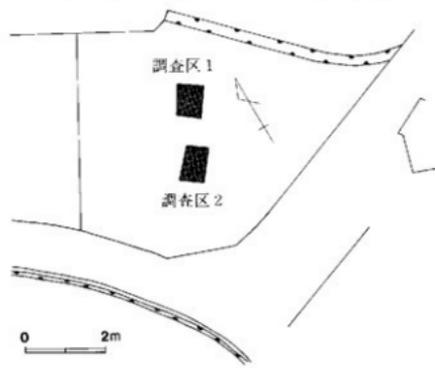
3. 96-7区の調査

本調査地は東円寺跡の南端に位置し、熊取町役場から南西に260mの位置に所在する。現状は更地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって人力掘削により平成8年10月15日に調査を実施した。

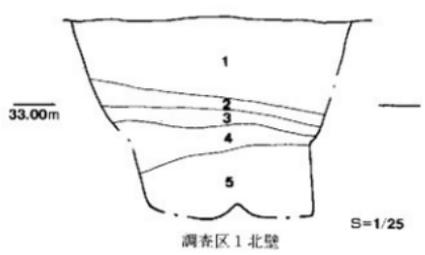
第13図のように調査対象地の北側と南側の計2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削を行って第14図のような調査区の土層を観察することができた。

土層は当該土木工事により破壊される現地表面下60cmまで掘り下げたが、全て近代の盛土であった。

近年まで建物が建っていたが、その建設当時による盛土であると思われる。遺物も一切出土しなかった。当調査地は前述の96-5区に隣接地でありその様相も同様である。(永井)

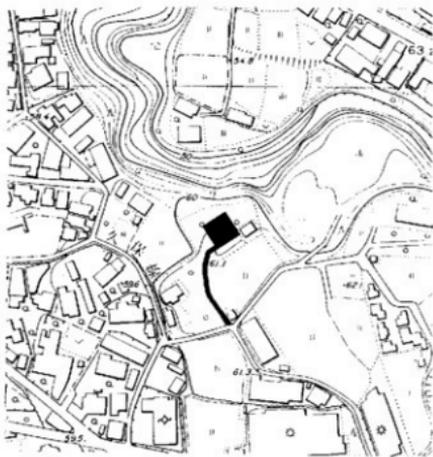


第13図 東円寺跡96-7調査区位置図

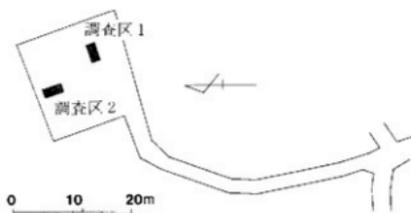


- | | | | | |
|---|--------|-----|--------|-----|
| 1 | 10 Y R | 5/4 | にぶい黄褐色 | |
| 2 | 10 Y R | 2/1 | 黒 | 灰 |
| 3 | 10 Y R | 5/6 | 黄褐色 | 粘質土 |
| 4 | 2.5 Y | 7/8 | 黄 | 粘質土 |
| 5 | 2.5 Y | 6/8 | 明黄褐色 | 粘質土 |

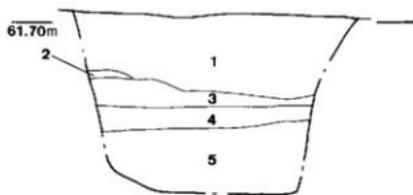
第14図 東円寺跡96-7土層断面図



第15図 久保城跡96-1 調査地点位置図



第16図 久保城跡96-1 調査区位置図



調査区1 東壁

第3節 久保城跡の調査

本遺跡は見出川の左岸に残る「矢の倉」「的場」等の小字名より中世城郭の存在を窺わせるが、現在城郭に直接関する遺構などは未だ検出していない。

1. 96-1 区の調査

本調査地は久保城跡の中央やや西よりに位置し、熊取町役場から東南東約1.4kmの位置に所在する。現状は宅地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成8年10月2日に調査を実施した。

第16図のように調査対象地の北側と南側に計2ヶ所の調査区を設定し、機械掘削を行って第17図のような土層を観察することができた。

土層は両調査区とも同様に呈しており上から近年の宅地整地の際の盛土層①・②、近代まで行われていた耕作に關係する耕作土層③・④、黄褐色砂質土の無遺物層⑤である地山を確認できた。

久保城推定地の中心からやや離れているが、当地周辺において中世期には開発が行われていたはずであり、その痕跡が確認できないと言うことはそれ以降に行われた耕地化の際に当時の遺構面は削平されているようである。また遺構・遺物は一切出土していない。

今回の開発による文化財への影響はないとして調査を終了した。(永井)

1	7.5Y R	4/4	褐色	(近代盛土)
2	2.5Y	6/4	にぶい黄色	砂
3	5 Y	3/2	オリーブ褐色	粘質土(旧耕作土)
4	2.5Y	4/2	暗灰黄色	粘質土(赤褐色粘質土層・旧耕作土)
5	10 Y R	5/4	にぶい黄褐色	砂質土(地山)

第17図 久保城跡96-1 土層断面図



第18図 久保城跡96-2調査地点位置図



第19図 久保城跡96-2調査区位置図



S=1/25

調査区2 南壁

1	10 Y R	3/4	暗褐色	砂質土（現表土）
2	10 Y R	5/3	にぶい黄褐色	砂質土（田耕作土）
3	10 Y R	6/2	灰黄褐色	粘質土
4	10 Y R	7/1	灰白色	粘質土（地山）
5	10 Y R	8/3	浅黄褐色	砂質土（地山）

第20図 久保城跡96-2土層断面図

2. 96-2区の調査

本調査地は久保城跡の北端に位置し、熊取町役場から東南東に約1.3kmの位置に所在する。現状は荒蕪地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だつて平成8年12月27日に発掘調査を実施した。

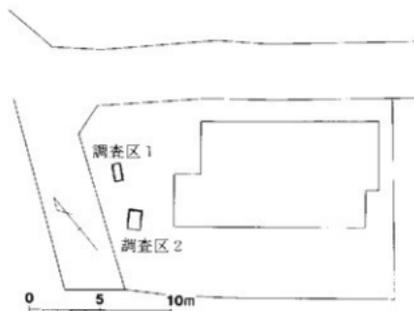
第19図のように調査対象地に計2ヶ所の調査区を設定し、機械掘削を行って第20図のような土層を観察することができた。

土層は、両調査区とも同様に呈しており、上から現表土層①、近年まで行われていた耕作土層②、中世期と思われる堆積層③、黄橙色系の無遺物層である地山④・⑤となっている。

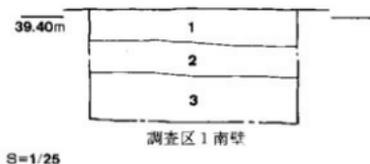
本調査地は中世期の堆積層は認められるものの、遺物は包含しておらず、また遺構も一切検出しておらず、今回の開発により文化財への影響はないとして調査を終了した。（永井）



第21図 大谷池95-1 調査地点位置図



第22図 大谷池95-1 調査区位置図



S=1/25

- 1 7.5YR 4/1 楊灰色
- 2 7.5YR 7/8 黄棕色
- 3 7.5YR 4/3 褐色

第23図 大谷池95-1 土層断面図

第4節 大谷池遺跡の調査

大谷池の所在する丘陵裾は住吉川によって形成された低地部がひろがっており、本町において最も占くから人々の暮らしがはじめられた所と考えられ、弥生時代後期頃よりの複合遺跡である大久保B・E遺跡が存在する。したがって本遺跡もこれらの遺跡群との関連も十分考えられるが、現在まで遺跡の性格等を窺い知る成果は挙がっていない。

1. 95-1区の調査

本調査地は大谷池の中央部北岸に位置する。個人専用住宅の増築工事に先だって平成8年2月29日に発掘調査を実施した。

第22図のように調査対象地の中央部に調査区を2ヶ所設定して人力掘削を行って、第23図のような調査地の地層を観察することができた。

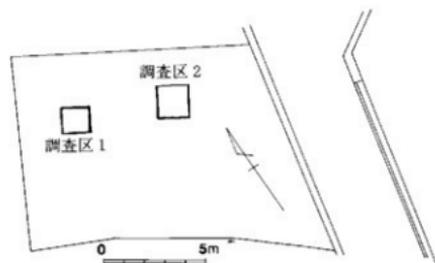
土層は基本的に宅地造成による大幅な盛土①・②の上に住宅の庭土③が存在する。

大谷池の池岸を形成する旧来の地層はこれよりはるか下に存在していると思われ、今回の開発による破壊のおそれはないものと確信を得て調査を終了した。

なお造成時の盛土の中に遺物は一切検出されなかったこともあわせて報告する。(前川)



第24図 大谷池96-1 調査地点位置図



第25図 大谷池96-1 調査区位置図

2. 96-1 区の調査

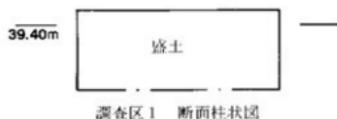
本調査地は大谷池中央部北岸に位置し、前項の95-1 区の調査地点のすぐ向に面している。

個人専用住宅の改築工事に先だって平成8年11月11日に発掘調査を実施した。

第25図のように調査対象地に調査区を2ヶ所設定し開発深度にあたる現地表下40cmまで人力掘削を行ったところ第26図のような調査区の地層を観察することができた。

両調査区とも基本的に相違はなく、宅地造成における盛土、その上に庭土が観察される。また地山等の宅地造成以前の層はこれよりもまだはるか下に存在するものと思える。

調査による遺物は一切なく、今回の開発が大谷池北岸の旧来の地層に達するおそれがまったくない事を確認したうえで調査を終了した。(前川)



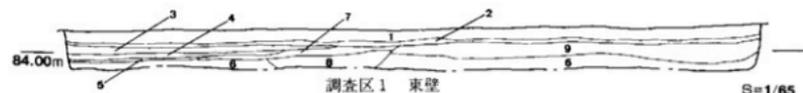
第26図 大谷池96-1 土層断面図



第27図 池ノ谷96-1 調査地点位置図



第28図 池ノ谷96-1 調査地点位置図



1	10Y R	3/2	黒褐色	砂質土 (耕作土)	6	2.5 Y	7/6	明黄褐色	砂質土 (地山)
2	10Y R	6/8	明黄褐色	砂質土 (床土)	7	10Y R	5/8	黄褐色	砂質土
3	10Y R	7/8	黄褐色	粘質土 (砂礫多含)	8	2.5 Y	6/4	にぶい黄褐色	砂質土 (礫多含)
4	2.5 Y	6/3	にぶい黄色	砂質土 (礫多含)	9	2.5 Y	6/6	明黄褐色	粘質土 (礫多含)
5	2.5 Y	6/4	にぶい黄色	砂質土					

第29図 池ノ谷96-1 土層断面図

第5節 池ノ谷遺跡の調査

本遺跡は昭和56年の分布調査でチャート製の石器や剥離片が採取されており、旧石器時代の遺跡が考えられるようになった。以来小規模な調査を実施しているが、詳細は不明である。

96-1 区の調査

本調査は池ノ谷遺跡の中央部に位置し、熊取町役場より南に約2.65kmの位置に所在する。現状は畑地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成8年11月13日から21日までの4日間で調査を実施した。

第28図のように調査区を設定し、人力掘削を行って第29図のような調査区の土層を観察することができた。

土層は現在まで行われていた耕作土①・②、近年の整地層③・④、明治期以降の陶磁器を僅かに含んでいる近代整地層⑤・⑥・⑦、その下層に明黄褐色砂質土の無遺物層⑧を確認した。遺構は一切検出していない。

本調査地は丘陵地に造られた耕作地であるため、大幅な整地作業が行われたと思われる、旧来存在していたであろう土層や遺構面は削平されている様である。また旧来本遺跡は旧石器器の散布地として周知されているが、旧石器時代の遺物は一切確認できずに終了した。(永井)

第4章 おわりに

久保B遺跡、東円寺跡、久保城跡、大谷池遺跡、池ノ谷遺跡の5遺跡で計9件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果の概要を説明してきた。いずれの調査でも成果として特筆できる遺構、遺物等は検出することはできなかった。以下に今後の課題も含めてまとめてみる。

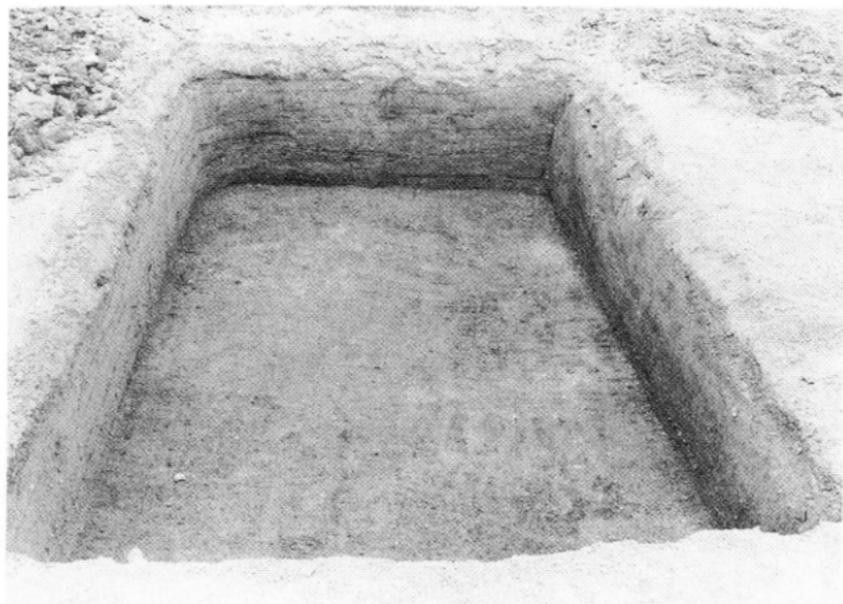
東円寺跡の調査については、寺院自体については未だ不明確ながらも、付近一帯の歴史的様相は既往の調査成果の蓄積により、徐々にではあるが解りつつあるという状況である。今回の調査地点は中心部から離れた地点であったためか、新たな知見は得られなかったものの、96-4区では僅かではあるが瓦器などの遺物を含む分厚い包含層を検出しており、鎌倉から室町期に確実に開発等があったことを示している。また本遺跡の西隣に所在する口無池遺跡において時期はやや下がるが東円寺跡で確認しているものと同方向・同規模の水田または畑作に関与すると思われる溝状遺構を検出しており、中世村落としての様相は西方向への拡がりを認識させるものであり、今後の調査によりさらに範囲は拡がると考えられ、周辺地域においても重要なものになると言えるだろう。

また久保城跡の調査に関しても今回新たな知見は得られなかった。久保城はその付近一帯に残されている小字名等から鎌倉時代に城郭が存在したと考えられているが、その実態は一切不明であり今後の調査に期待したい。また久保城跡の南西約250mの地点に所在する久保B遺跡でも今回目につく成果はなかったが、これまで調査例も少なく、性格・範囲等の究明は久保城跡との関連も含めて今後の課題といえるだろう。

これまで成果の挙がっていない大谷池遺跡、池ノ谷遺跡についても同様で、調査面積が狭いことも含めて成果を得ることはできなかった。今後の調査に期待したい。

本町においては、町内の遺跡群について遺跡毎の諸様相の把握が殆どなされていないのが現状である。詳細な遺跡の範囲を確認することも含めて、今後の我々に課せられた責務といえるだろう。(水井)

圖 版



調査区全景



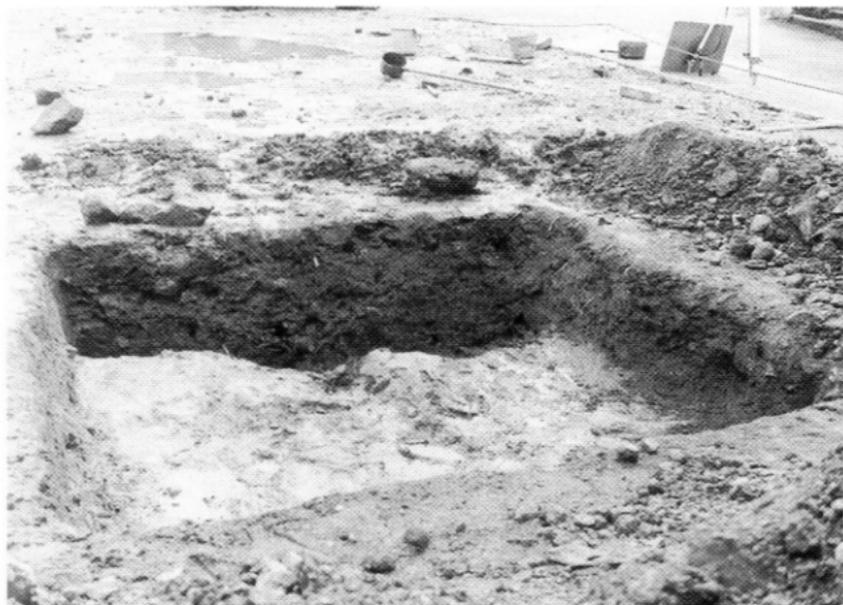
調査区壁面土層断面



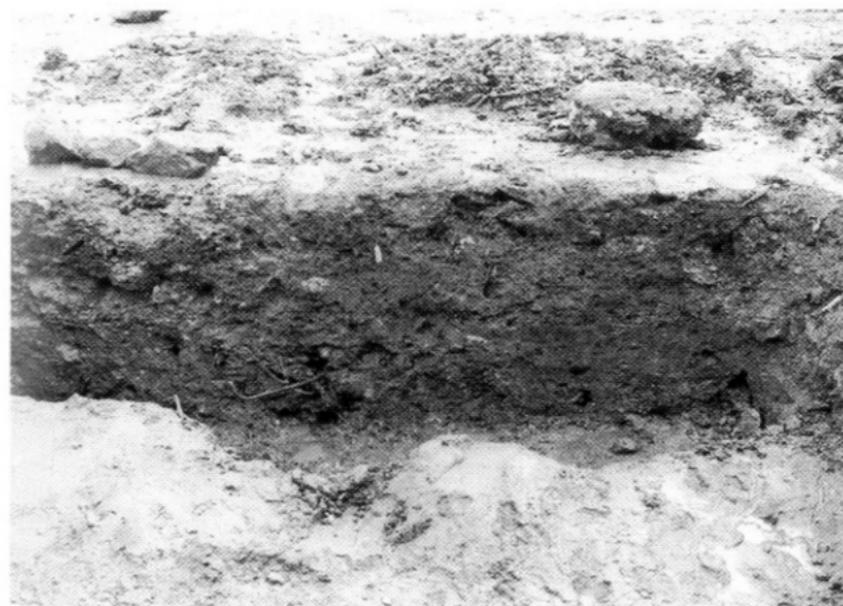
調査区全景



調査区壁面土層断面



調査区全景



調査区壁面土層断面



調査区全景



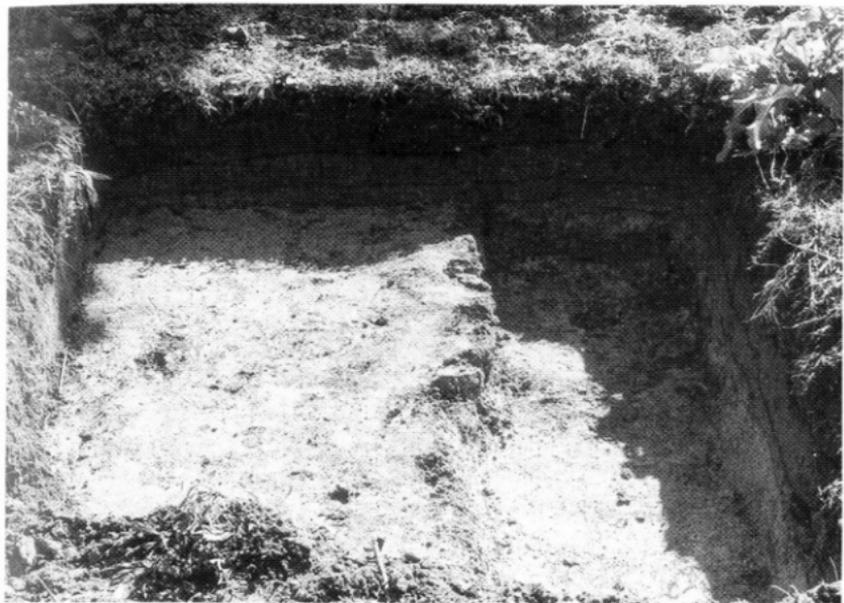
調査区壁面土層断面



調査区全景



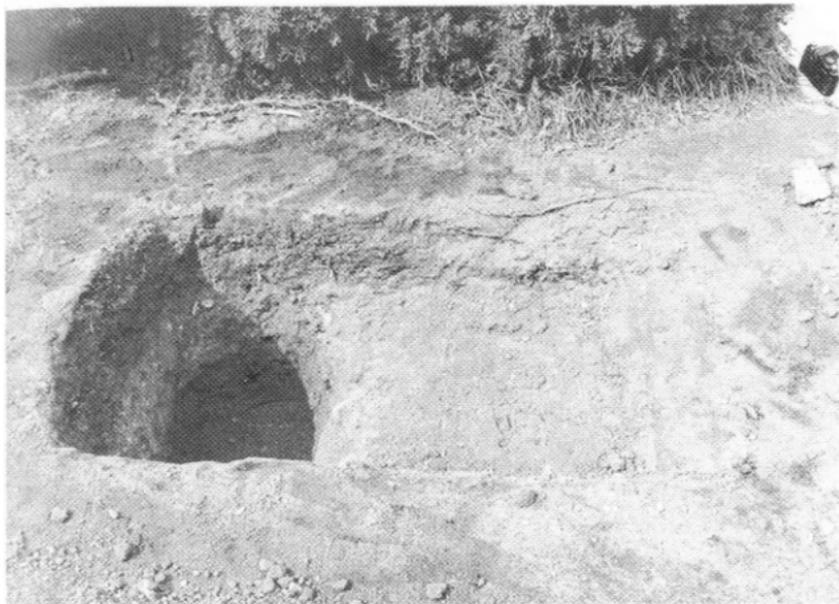
調査区壁面土層断面



調査区全景



調査区壁面土層断面



調査区全景



調査区壁面土層断面



調査区全景



調査区壁面土層断面



調査区全景



調査区壁面土層断面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうぎがいようほうこくしよ						
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書						
巻次	XI						
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第29集						
編著者名	前川 淳・永井 仁						
編集機関	熊取町教育委員会						
所在地	〒590-04 大阪府泉南郡熊取町大字野田2244番地 T E L.0724 (52) 1001						
発行年月日	1997年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
久保B遺跡 96-1区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保1121-3	27361	38	34° 23' 37"	135° 22' 10"	19960430	8 個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
集落跡				瓦器・土師質土器・陶磁器			
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
東内寺跡 96-4区	大阪府泉南郡 熊取町大字 野田2397-1	27361	6	34° 23' 54"	135° 20' 20"	19960924~ 19960927	8 個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺院跡	弥生～江戸			瓦器・土師質土器			
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
東内寺跡 96-5区	大阪府泉南郡 熊取町大字 相屋286 12	27361	6	34° 23' 50"	135° 21' 18"	19961007~ 19961009	4 個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺院跡	弥生～江戸						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
東内寺跡 96-7区	大阪府泉南郡 熊取町大字 相屋286-12	27361	6	34° 23' 50"	135° 21' 19"	19961015	3 個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
寺院跡	弥生～江戸						

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久保城跡 96-1区	大府府泉南郡 熊取町大字 久保1582-1	27361	15	34° 23' 34"	135° 22' 18"	19961002	6	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	城郭跡	鎌倉						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久保城跡 96-2区	大府府泉南郡 熊取町大字 久保34-1	27361	15	34° 23' 32"	135° 22' 18"	19961227	8	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	城郭跡	鎌倉						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大谷池遺跡 95-1区	大府府泉南郡 熊取町大字 久保 北2-1-2	27361	17	34° 24' 14"	135° 21' 06"	19960229	4	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	散布地	古墳～江戸						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大谷池遺跡 96-1区	大府府泉南郡 熊取町大字 久保 北2-238-3	27361	17	34° 24' 15"	135° 21' 04"	19961111	3.5	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	散布地	古墳～江戸						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
池ノ谷遺跡 96-1区	大府府泉南郡 熊取町大字 野田486-1	27361	4	34° 21' 23"	135° 21' 42"	19961113～ 19961121	40	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
		種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
	散布地	旧石器						

熊取町埋蔵文化財調査報告第29集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XI

発行日 平成9年3月31日

編集・発行 熊取町教育委員会
大阪府泉南郡熊取町大字野田2244番地

印刷 小笠原印刷機